

〈調査票の記入要領・記入例〉

〔農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、サービス業等〕

※ この資料には、調査票の具体的な記入例が記載してあります。

※ お手数ですが、この「記入例」を参考にして調査票にご記入の上、**令和2年1月17日(金)**までに同封の返信用封筒(切手不要)又は電子メールにて、ご返送くださいますようお願いいたします。
電子メールの回答先: hiroshimacity-sp@gr-eco.co.jp

※ 本調査に関するお問い合わせは、(株)グリーンエコ(電話0120-848-036)へお願いいたします。

※ ご提出いただいた調査票の記入内容について、電話等により確認させていただく場合もありますので、必ず調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。

調査票【その1】の記入要領・記入例

の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その1】を記入してください。

記入日	令和 元 年 Δ 月 〇 日			
事業所の概要	事業所名	(株)ΔΔΔ広島工場		(具体的に)
	所在地	〒731- 広島市Δ-〇〇		事業内容
	フリガナ	ヒロシマ タロウ	フリガナ	ミハラ ハナコ
	代表者氏名	広島 太郎	記入者 (部課、氏名)	〇〇部〇〇課 三原 花子
記入年月日	令和 元年 Δ 月 〇 日	電話番号	082-12-3456	
				××製品

事業の概要	従業者数	製造品出荷額(製造業のみ記入)	事業所の形態	廃棄物処理業の許可
	平成31年3月31日現在の従業者数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入してください。	平成30年1月1日から平成30年12月31日までの1年間の額を記入してください。	貴事業所の形態に対する番号に〇を付けてください。	許可を受けている場合は、該当する事業内容を〇で囲んでください。
	200人	千億 百億 十億 億 千万 百万 十万 万 万円/年 480000	①工場・作業所・鉱業所 2. 開発研究のみ 3. 事務所のみ 4. その他()	1. 産廃収集運搬業 2. 産廃処分業(中間処理) 3. 産廃処分業(最終処分)

平成30年度の1年間に産業廃棄物は発生しましたか。該当する番号に〇を付けてください。

① 発生した。
2. 発生しなかった。

平成30年度に貴事業所から発生した産業廃棄物(有償で取引されている副産物も含める)は、おおむね5年前と比較して、どの様に変化しましたか。該当する番号に〇を付けてください。

1. 大きく増加した。 2. やや増加した。
3. 変化していない。 4. やや減少した。
⑤ 大きく減少した。 6. その他・不明。

〔上記で1又は5と回答された方は、その理由をご記入ください。〕
歩留りの向上により、端材が減少した。

「製造品出荷額等」の記入について

1. 製造業の場合のみ記入してください。
2. 製造品出荷額等とは、「製造品出荷額、加工費収入額、修理料収入額」等の合計であって、1年間の額です。(不明な場合は、売上高をご記入ください。)
3. ただし、調査票が送付された事業所の内容が、「本社事務のみ、事務所、営業所、配送センター及び販売所」等であって、実際に製造、加工及び修理等を行っていない場合は、「0(ゼロ)」を記入してください。

<調査票の記入要領・記入例【その2】>

調査対象期間

●この調査の対象期間は、平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～④までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物だけが記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別添の「廃棄物分類表」を参考にしてください。

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。（記入例Eを参考にしてください）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後の量」となります。

○**自社で汚泥を脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例Fを参考にしてください）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。

$$\text{〈式〉} : (\text{脱水前の汚泥発生量}) = (\text{脱水後の汚泥量}) \times (100\% - \text{脱水後の含水率}\%) \div (100\% - \text{脱水前の含水率}\%)$$

記入について

- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。
- 廃棄物量をt(トン)又は、m3以外の単位で把握している場合は、できる限り換算して記入してください。また、個数や本数の場合も1個当たりの重量等より換算してください。例えば、廃タイヤ(普通7kg、大型40kg)を、それぞれ100本排出した場合は、 $7\text{kg}/\text{本} \times 100\text{本} + 40\text{kg}/\text{本} \times 100\text{本} = 4,700\text{kg} = 5\text{t}$
- 委託処理については、マニフェスト伝票等を参考に記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入してください。

調査票【その2】の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考に調査票【その2】を記入してください。

④中間処理方法コード表

A: 焼却	F: 中和	K: 切断	P: 乾熱滅菌	V: 濃縮
B: 脱水	G: 破碎	L: 焼成	Q: 煮沸 (15分以上)	W: 油化
C: 天日乾燥	H: 分級	M: 堆肥化	R: オートクレーブ	X: 造粒固化 混練固化
D: 機械乾燥	I: 圧縮	N: 銀回収	S: 薬物消毒	Z: その他
E: 油水分離	J: 溶融	O: コンクリート固型化		

⑥処理・処分方法コード表

<自己処理> Q1: 自社の処分場で埋立処分した。 V1: 自社で再利用した。 V2: 自社現場内で利用した。 W1: 売却(利益があった)した。 Z1: 自社で保管している。	<産業廃棄物処理業者等へ委託処理> S1: 処理業者の処分場で直接埋立処分した。 S2: (一財)広島県環境保全公社で直接埋立処分した。 T1: 処理業者で直接海洋投入した。 U1: 処理業者に中間処理(資源化・リサイクルを含む)を委託した。 X1: 廃品回収(資源)業者、あるいは納入業者、関連企業等でリサイクル(無償譲渡)した。
<その他> Z9: その他	<市町村へ委託処理> R1: 市町村、一部事務組合等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。 R5: 市町村の清掃工場で処理(焼却、破碎、脱水等)した。(ごみ収集を含む) R6: 市町村の清掃工場でリサイクルした。

⑩委託中間処理方法コード表

A: 焼却	P: 乾熱滅菌
B: 脱水	R: オートクレーブ
C: 天日乾燥	S: 薬物消毒
D: 機械乾燥	T: 金属(鉄)回収
E: 油水分離	U: 非鉄金属回収
F: 中和	V: 濃縮
G: 破碎	W: 油化
H: 分級	X: 造粒固化・混練 固化
I: 圧縮	Y: 解体
J: 溶融	
K: 切断	
L: 焼成	(セリト)原材料
M: 堆肥化(発酵)	
N: 銀回収	
O: コンクリート固型化	

⑫資源化用途コード表

10: 鉄鋼原料	60: パルプ・紙原材料
20: 非鉄金属等原材料	70: ガラス原材料
30: 燃料	80: プラスチック原材料
31: 木炭・炭化物	81: 再生タイヤ
41: 飼料	90: セメント原材料
42: 肥料	91: 再生油・再生溶剤
43: 土壌改良材	92: 中和剤
50: 土木・建設資材	93: 高炉還元
51: 再生木材・合板	98: その他
52: 再生骨材・再生路盤材	

①②: 別添の「廃棄物分類表」を参照してください。

③: 該当する単位に、必ず〇をつけてください。

⑤: 微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1t未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はtに〇をつけてください。

⑥⑦: 廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

⑧: 所在地が広島県外の場合は、県名から記入をしてください。

⑩委託中間処理後の処分方法

1 再利用・再生利用した
2 埋立処分した
3 海洋投入した

⑬: 委託中間処理後の産業廃棄物(処理残さ含む)を、最終的に再生利用(売却含む)又は埋立処分した場所を記入してください。所在地が県外の場合は、県名から記入してください。なお、中間処理業者自らが処理後に有価物(商品等)として売却している場合は、中間処理施設の所在地(設置場所)が「最終処分の場所(⑧=⑬)」に該当します。

⑭: 委託中間処理後の産業廃棄物(処理残さ含む)を、最終的に再生利用(売却含む)又は埋立処分した処分業者名(売却先が特定できる場合は、事業者名)を記入してください。なお、中間処理業者自らが処理後に有価物(商品等)として売却している場合は、中間処理業者が再生利用先(⑦=⑭)に該当します。

区分	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量						④方法番号			⑤中間処理後の量		⑥処理・処分方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称(収集運搬業者ではなく、処分業者名、再生業者名をご記入ください。)	⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑨所在地番号	⑩方法番号			⑪処理後の処分方法	⑫資源化用途	⑬最終処分(再生を含む)の場所	⑭再生利用先又は処分業者	
			百	十	万	千	百	十	一	単位	1次	2次	3次					1次	2次	3次					
記入例:A	紙くず	0700					6								X1	〇×商店	都道府県 広島 市町村	09				①・②・③	60	岡山 都道府県 岡山 市町村	〇△〇(株)
記入例:B	鉄板くず	1210					5								W1	〇〇	都道府県 福山 市町村	11				①・②・③	10	岡山 都道府県 同左 市町村	同左
記入例:C	機械油	0311					1								U1	××商店	都道府県 山口 市町村	55	E		①・②・③	30	福岡 都道府県 北九州 市町村	(株)〇×	
記入例:D	プラスチック製品くず	0614					2								U1	〇〇	都道府県 呉 市町村	10	A		1・②・③		都道府県 呉 市町村	△△(株)	
記入例:E	廃パレット	0802					1								Q1	自社	都道府県 廿日市 市町村	02			1・②・③		都道府県 廿日市 市町村		
記入例:F	下水汚泥	0211					1								S1	〇〇(株)	都道府県 岡山 市町村	53			1・②・③		都道府県 倉敷 市町村		
記入例:G	ガラス研磨汚泥	742B					1								U1	△△産業	都道府県 福山 市町村	11	F Z		1・②・③		都道府県 福山 市町村		
	活性汚泥(余剰汚泥)	0210					1								S1	〇〇	都道府県 広島 市町村	09			1・②・③		都道府県 広島 市町村	〇×(株)	

記入例:A

- 出荷の際、規格外となった紙くずが年間に6t程度発生した。
- これは広島市にある資源業者の〇×商店に無償で渡し、岡山市にある製紙会社〇△(株)で紙原料として再利用されている。

記入例:B

- 鉄板の加工の際に鉄板くずが年間に50m発生した。
- これは、福山市にある〇〇(株)に売却した。
- 相手先では鉄鋼材料として利用している。

記入例:C

- 月平均で一斗缶5本ぐらいの機械油が発生した。
- 重量換算すると年間に、1tである。
- これは、山口県萩市の再生業者××商店に再生を依頼した。
- ××商店で油水分離後、福岡県北九州市の〇〇(株)で燃料として再生利用している。(18kg×5本×12ヶ月)

記入例:D

- プラスチック製品くずが年間に20t発生した。
- これは呉市の〇〇(株)に処理を委託した。
- 委託先では、焼却処理後、呉市にある△△(株)の最終処分場で埋立処分している。

記入例:E

- 木製廃パレットが年間に10t発生した。
- 自社の焼却炉で全て焼却した。
- 焼却灰は、1t程度で自社の処分場(廿日市市)で埋立処分した。

記入例:F

- 下水汚泥が発生した。
- 自社の施設で脱水を行い、脱水後の残さが10t(含水率80%)であった。
- 脱水前の量は、計量していないので正確ではないが、脱水前の含水率が98%であるため計算すると、100t程度となる。
- 処理後の汚泥は、△△(株)に運搬を委託し、岡山県倉敷市に処分場を保有する〇〇(株)で直接埋立処分した。
- 計算式 $10\text{t} \times (100 - 80) \div (100 - 98) = 100\text{t}$

記入例:G

- 特定有害汚泥と活性汚泥(余剰汚泥)が110t発生した。
- 特定有害汚泥は年間に10t発生し、自社での中間処理は行わず、福山市に処理施設を保有する△△産業に収集・運搬及び中間処理を委託した。業者は、中和及び無害化処理した後、埋立処分している。
- 中間処理後の汚泥の最終処分場所は広島市にある〇×(株)の最終処分場である。
- また、活性汚泥(余剰汚泥)は、濃縮後の100tを自社の施設で脱水し、処理後の残さ25tは広島市の〇〇(株)で埋立処分した。